

神に委ねる歩み

岩河敏宏

聖書：箴言 16 章 32 節～33 節

32 にんたい ちから つよ 忍耐は力の強さにまさる。
じせい ちから まち せんりょう 自制の力は町を占領するにまさる。

33 ひざ うえ な くじは膝の上に投げるが
さだ しゅ あた ふさわしい定めはすべて主から与えられる。

私たちが住む社会では、常に競争と評価に晒されています。そのため、必要以上に他者からの“評価”を気にしてしまう、つい意識してしまう、という方もおられるでしょう。社会の厳しい現実を踏まえれば、それも仕方のないことかも知れません。

しかし、私たちは、この世の価値観だけを指標としているわけではありません。むしろ、神が私たちに向ける眼差し（評価）を、想起してもらいたい。神が人に対する眼差しとして最初に記された箇所は、カインとアベルの記事です。神が弟アベルの献げ物には目を留め、兄カインの献げ物には目を留められなかった事に強く嫉妬して、兄は弟を殺害します。その事を神から問われたカインは、犯した罪の故に自らも命の危険に晒されることを案じます。神が彼に告げた言葉は【「いや、それゆえカインを殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」主はカインに出会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしるしを付けられた】（創世記 4 章 15 節）です。

神は、人が自分勝手に他者を評価し、撃つ(攻撃)ことがないように“しるし”を付け、命が絶たれることを許しません。アベルへの嫉妬心(感情)を制することが出来ず、重罪を犯した者に向けられる負の評価が、神なしに連鎖・増幅することを断つための手段です。

冒頭の箴言を、この神の視点で解く。“忍耐”は“怒りを遅くする”の意味で、一時の激情で行動する事を抑制する者は勇士に勝ること。“自制”は“自分の心を治める”の意味で、見えざる内面を制する者は町を攻め取る者に勝ることを教えています。32 節全体は、物事の本質に対する思慮と、感情の制御に関する勧めです。続く 33 節は 16 章の最終節で、本章の前半(1 節, 3 節, 9 節)と呼応します。【主が舌に答えるべきことを…】(1 節)、【あなたの業を主に委ねれば…】(3 節)、【…主が一步一步を備えてくださる】(9 節)と、【ふさわしい定めはすべて主から与えられる】(33 節)は気脈を通じています。

神の眼差しは、大罪を犯した者にも向けられ、保護して下さる、と記されているのです。この箴言でも、厳しい現実の中で一時の感情に流されず、神に委ねる歩みをする時に、「ふさわしい定め」が主から与えられる、とあります。私たちは、自身の言動について、必要以上に一喜一憂することはありません。神が備えて下さると信じ、今を大切に過ごしたいものです。

教会家族

5月の聖句

「忍耐は力の強さにまさる。

自制の力は町を占領するにまさる。」

(箴言 16 章 32 節)



東海 文子

この度、この教会に転入会出来ましたことを感謝いたします。

信仰生活は、1974 年位に受洗して、以来歩みが遅いのですが、出来る事なら皆さんのそばに少し

でも居られたらいいのになと思っておりますので、よろしく願いいたします。

.....

<みんなの礼拝>に咲いた花

清水 和

岩河牧師が祝祷・後奏の後に「今日は、何でもいいから、皆さんの方から聞きたいことなどありませんか？」と話しかけました。しばらくの間、子どもからの反応がなく、その後「礼拝で歌った『ホサナ』ってどんな意味ですか？」、と言う質問がありました。

牧師は、少し戸惑いつつ困った表情で「ああ『ホサナ』について、今日は準備していなかったなあ…。これは来週まで宿題にさせて下さい…。」この時に、会堂の空気が不思議に和んだように感じられました。



<みんなの礼拝>の景色を取り上げていますが、どの場面にも共通して見えてくるのは、心を配り、気を配っての<心遣い>ではないでしょうか。

その瞬間ごとに不安を感じながら互いにかかわり合って礼拝が進められているように思われました。

次の場面で、「春の遠足に行っておもしろかったことを話して下さい。」この問いに数人の子どもが手をあげました。牧師が子どものためにスタンドマイクを用意しましたが、マイクが高くて口が届きませ

ん。急いで牧師は首のマイクを外して子どもの口元に近づけ、遠足で楽しかったことなどを聞くことが出来ました。その間に別の場所では、ハンドマイクを急ぎ用意するおともも見えていました。

続いて献金が始まります。「主日礼拝」で用いられている長い取手をつけた布袋と異なり、短い取手が左右についた袋です。献金を入れて直ぐ隣の人に手渡す方法で順に送っていくつもりでしたが、子どもにはこの一連の動きはなかなかの壁になったようでした。行き先を失ってしまった袋を次へ進めようと、おとなが心配げに手を出しますが、順々に手渡す方向へと祈っているかのような動きも見えていました。

<みんなの礼拝> この晴れやかで、すがすがしい朝の礼拝の一瞬ごとに花が咲いたとすれば、その数はどれほどになるのでしょうか。

礼拝堂の中は、花の香りで満ちていました。

そうだ！！次の礼拝には、正面の入り口をいっばいにかけて足を踏み入れよう！！小さな敷物の上でおさな子が私を迎え入れてくれるのだから。



<イースターエッグの準備>

3 年ぶりに、カードだけでなく、ホンモノの卵でイースターの喜びを伝えましょうと計画。ところが卵の品薄が報じられ、ある日 3 箱、翌日 4 箱と買い足し、突然次の日は、20 円も値上げ。こうして 130 個ゲット！ オットその前に、従来アルミ箔を巻き、それをセロファンで包んでいたのですが、もうセロファンは製造されていないと知らされ、考え出したのが不織布の袋を縫って、そこに入れることに！

「水から入れて 10 分」「いや、確実にゆでるには、15 分」「あまり長くゆでると黒くなる」「どうしたら完全にゆであがるとわかる？」「菜箸で持ち上げられたら OK」「そんなこと聞いたことない！」「母からおそわったわ」という事で、早速実験。持ち上がった！これでバッチリ。袋に入れると、ちょっと寂しい。「じゃ、シールを貼りましょう」 アイデアを出し合いながらの楽しい一仕事。



出来上がった卵を籠に入れ、翌日を待ちました。

HAPPY EASTER!!

2023年イースター礼拝後の集合写真・その後のティータイム点描



持ち寄り愛餐会は出来なくとも、お茶一杯と少しのお菓子で楽しいひと時を、各部勧誘の時間として過ごしました。

